

| | | |
|--|-------------|-----|
| 科目名称： | 教育実習 | |
| 担当者名： | 石野 友子、村上 知子 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 実習 | 4 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| 1. 学びつつある保育の理論と実践との統合をねらいとし、子どもの主体性を促す保育援助に必要な実践的知識・技能の習得を図る。 2. 保育全般に関する実践的側面についての理解を得、目指す保育者像を探る。 3. 幼稚園教諭2種免許の取得を図ることを前提に、保育者としての使命感を醸成する。 | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| 1. 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育者の理解を深める。 3. 既習の教科や実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深める。 5. 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。 | | |

| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP(1) | 建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。 | |
| DP(2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。 | |
| DP(3) | 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP(4) | 学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。 | ○ |

| 評価方法／ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP(1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(2) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(3) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(4) | | | | 100 | 100 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|-----------------|
| あり | 《内容1》 保育士 | 《経験年数1》 8ヶ月 |
| | 《内容2》 幼稚園教諭 | 《経験年数2》 20年・22年 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| |
|----|
| 備考 |
| |

| 到達目標ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|------------|--|-------------------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 実習事前準備 | 年齢、季節に合った教材等が準備されている。 | 年齢に合った教材等が準備されている。 | 教材等が準備されている。 | 教材等を準備する努力が見られない。 |
| 指導 | ねらいに沿った環境構成、活動、援助・留意点を元に子どもにわかりやすく指導出来る。 | ねらいに沿った環境構成、活動、援助・留意点を元に指導することが出来る。 | ねらいに沿った指導が出来る。 | ねらいに沿った指導をする努力が見られない。 |
| 記録 | ねらいに沿って、子どもとのやりとりを詳細に記録し、子ども理解が出来る。 | ねらいに沿って、子どもとのやりとりを詳細に記録出来る。 | ねらいに沿って、子どもとのやりとりを記録出来る。 | ねらいに沿った子どもとのやりとりを書く努力が見られない。 |
| | | | | |

授業の内容・計画、及び事前事後学修の内容・学習時間（分）

| |
|---|
| <p><内容></p> <p>1. 見学・観察実習</p> <p>a. 実習園の沿革や概要、教育方針を理解する。</p> <p>b. 実習園の1日の流れを理解する。</p> <p>c. 実園の人的・物的環境構成を理解する。</p> <p>d. 保育者の職務内容を理解する。</p> <p>e. 集団行動・個別行動を観察し、子ども理解につなげる。</p> <p>f. 年齢別発達段階の特徴を知る。</p> <p>g. 家庭や地域社会との連携を理解する。</p> <p>2. 参加実習</p> <p>a. 担当保育者の指示を受け、保育準備の手助けをする。</p> <p>b. 担当保育者の助手的な立場で保育に臨む。</p> <p>c. 担当保育者の了解を得ながら、環境構成に積極的に参加する。</p> <p>d. 担当保育者の指導計画案のねらいや、援助の仕方を理解する。</p> <p>e. 基本的な生活習慣に関して、教育的意義を踏まえて参加する。</p> <p>3. 責任実習</p> <p>a. 講義や演習で得た知識や技能を、実践を通して確かなものとする。</p> <p>b. 指導計画案を立案し、実践する。</p> <p>c. 子どもの自発的活動を促すような環境構成ができるようになる。</p> <p>d. 子どもの興味・関心を察知し、遊びの変化の対応が出来るようになる。</p> <p>e. 子どもの個人差に気づき、活動意欲を高めるべく、指導・援助法を学ぶ。</p> <p>f. 子どもが理解できるような話し方が出来るようになる。</p> <p>g. 目標到達の自己分析をし、今後学習すべき自己研鑽を確認し、自己向上を図る。</p> <p><実習日程></p> <p>「教育実習」20日間…2年次6月または9月</p> |
|---|

準備学習時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

各実習先の評価、実習生自身の自己評価を含む養成校による評価を合わせて行う。 100%

(実習先からの総合評価が不可の場合は、幼児教育学科専任教員一同の協議で決定する。)

課題に対するフィードバック

実習記録及び指導案を評価・確認し、返却する。

教科書・参考書

「幼稚園実習」 小川清美編 ななみ書房 「実習の手引き」 金城大学短期大学部

「これで安心！保育指導案の書き方」 開 仁志編著 北大路書房 毎回使用します。